

市街地に飛来するキシタバ類(チョウ目, ヤガ科)について

下野谷 豊 一*

福井市街地のほぼ中央に位置する福井市宝永3丁目で1992～2003年の間に採集されたキシタバ類9種の記録。

キーワード：キシタバ類，移動

昆虫類の中には生息地を離れ，かなりの距離を移動する種があり，アサギマダラ（チョウ目，マダラチョウ科）のように毎年，季節によって南北に長距離の移動をくり返す種もある．キシタバ類と同じヤガ科のアケビコノハやムクゲコノハも秋になると市街地に姿を見せる常連である．

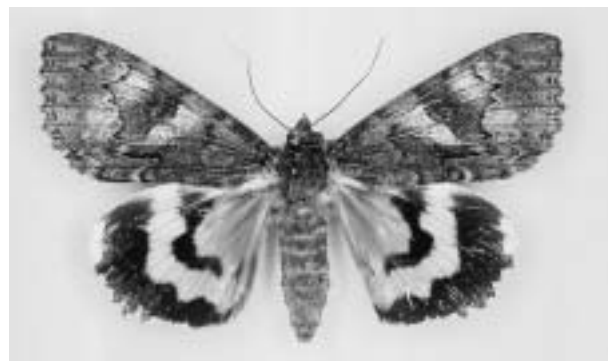
かつて福井市の市街地でオオシロシタバ（キシタバ類）が中学生によって採集されたことがある．この種は北海道と本州の中部以北に分布しており，この種の生息環境や分布域などから考えて，この記録に疑いを感じたことがあった．その後，周囲を水田に囲まれた武生市池泉町で福井県より初めてのムラサキシタバ（キシタバ類）が採集された．採集したのは同所で永年に渉り蛾類の調査をされていた福田久美氏で，その当時はムラサキシタバの福井県内での生息環境などについての知識もなく，凄い種が採れたなとしか思わなかった．その後，県内での生息域が標高1,000m前後のブナ林であることが解り，この頃からどうもキシタバ類も移動するのではないかと考え始めた．

著者の居住する福井市宝永3丁目は福井市のほぼ中央に位置し，1990年より市街地に飛来する，移動性のある蛾類を調べる目的でデータを取り始めた．採集地点（自宅）の北側に幅12cmの道路があり，その歩道上の東西約300mに終夜点灯している，1基に250wの水銀燈が2灯付いた街路灯が約30mの間隔で設置されている．さらに東側には4階建てビルの屋上に，青色のネオンのついた広告灯があり，これらの明かりに夜間，蛾などいろいろな昆虫類が飛来する．その中にキシタバ類（*Catocala*）も混じるが稀で，確認できたのは僅か9種11頭であった．採集データを以下に記録する．

ヤガ科 NOCTUIDAE

シタバガ科 CATOCALINAE

エゾベニシタバ *Catocala nupta* (linnaeus)
1, Oct.7 1992,



オニベニシタバ *Catocala dula* Bremer
1, July 30 1995, 1, July 30 2001,



この2頭は偶然とはいえ，同じ月日に飛来している．かつて大野市の三ノ峰の山頂近くでライトトラップによる蛾類の調査を行ったことがあるが，その時の月日が7月26日で，午後8時～9時の間にオニベニシタバが連続して20頭ほど飛来している．三ノ峰付近には生息環境がないので，尾根を越えての移動と考えられ，それもバラバラでなく渡り鳥のように群を形成して飛翔するのであろう．7月下旬が移動の1つの時期であろうか．

* 〒910-0004 福井市宝永3-31-12

シロシタバ *Catocala nivea* Butler

1 , Oct.7 1995



キシタバ *Catocala patala* Felder & Rogenhofer



マメキシタバ *Catocala duplicata* Butler

1 , July 15 2001



クロシオキシタバ *Catocala kuangtungensis* Mell
(福井県未記録)



ゴマシオキシタバ *Catocala nubila* Butler

1 , Aug.21 1993, 1 , Aug.8 2003,この種は以前より成虫の移動することが知られている .



ジョナスキシタバ *Catocala jonasii* Butler



アミメキシタバ *Catocala hyperconnexa* Sugi

1 , Aug.9 1995



ところで、日本には29種のキシタバ類分布しており、福井県内からは今回のクロシオキシタバを含める26種が記録され、分布が予想される種はほぼ確認されたことになる。今回福井市の市街地で確認された9種（過去にオオシロシタバの記録があり、それを入れると10種になる）のうち、エゾベニシタバについては本州中部あたりが生息地の南限で、恐らくこのあたりからの飛来と考えたいが、奥越山地での生息も否定できない。すでに移動することが知られているゴマシオキシタバは、ブナ、ミズナラ林に生息する種で、奥越山地あたりからの移動であろうか。また、クロシオキシタバは関東南部から紀伊半島の太平洋沿岸と九州に分布するが、食樹がウバメガシであることなどから、県内での生息は考えられず、明らかに迷い込んだものであろう。この他の6種についても県内に分布することは確かだ

あるが、一部を除き生息状況等の情報不足で言及できない。恐らく福井市周辺地域からの移動と考えたい。

次に、確認された年と確認数は、1992年、1993年、2003年にそれぞれ1例、1995年に3例、2001年に5例となっている。1995年と2001年に確認数が増加したのは何故であろうか。何らかの変動する原因はあったのであろうが、それを論ずるための情報は持たない。昆虫の中にはアキアカネ（トンボ科）のように季節によって山と里地を往復する種や、台風や偏西風による長距

離の移動をする種など、移動の要因や目的は様々で、その解明が今後の課題である。そのためには、より多くの観察データの積み重ねが必要であろう。

引用文献

- 井上寛ほか（1982）日本産蛾類大図鑑，講談社
下野谷豊一ほか（1998）福井県昆虫目録，チョウ目，福井県県民生活部自然保護課